

## 平成24年度 事業報告書

### 1. 法人の概要

#### 設置する学校・学部・学科

国立音楽大学

音楽学部

演奏学科、音楽文化デザイン学科

音楽教育学科

別科

大学院

音楽研究科

国立音楽大学附属高等学校

音楽科

普通科

国立音楽大学附属中学校

国立音楽大学附属小学校

国立音楽大学附属幼稚園

#### 役員概要

理事会

理事長 宮地忠明

監事 佐藤敏明

藤瀬 學

理事 庄野 進

内野好郎

長尾達則

神原雅之

花岡千春

久保田慶一

武田忠善

大学

学長 庄野進

副学長 神原雅之 副学長 花岡千春

中学校、高等学校 校長 荒木泰俊

小学校 校長 横澤敬蔵

幼稚園 園長 松沢孝博

## 学校法人の沿革

学 校 法 人 の 沿 革 ( 概 要 )	
大正 15 年 4 月	東京高等音楽学院創立(仮校舎を東京市四谷区番衆町)。 予科、本科(声楽・器楽・作曲)、高等師範科を置く。初代学院長渡辺取。
11 月	国立大学町(昭和 27 年・1952、文教地区に指定される)に校舎が竣工し移転。
昭和 3 年 12 月	新交響楽団(現NHK交響楽団)との共演でベートーヴェン“第九交響曲”の合唱として初出演、現在に至る。
昭和 16 年 8 月	私立の音楽学校として初めて文部省より中等学校音楽科教員無試験検定を認可。
昭和 22 年 7 月	国立音楽学校と改称。
昭和 23 年 5 月	財団法人国立音楽学校となる。
昭和 24 年 1 月	国立音楽高等学校・国立中学校設置認可。
昭和 25 年 2 月	国立音楽大学に昇格(声楽・器楽・作曲・楽理・教育音楽)。学長 有馬大五郎。
7 月	国立幼稚園設置認可。
9 月	楽器研究所附設設置認可。
昭和 26 年 2 月	学校法人国立音楽大学に組織変更。
4 月	別科(作曲・声楽・器楽・調律専修)設置認可。 附設保育科設置(幼稚園教諭養成機関として認可・1年制)。
昭和 28 年 5 月	国立音楽大学附属小学校設置認可。
昭和 30 年 4 月	大学に第2部を設置認可。
昭和 31 年 4 月	専攻科(作曲・器楽・声楽・楽理・教育音楽専攻)設置。保育科を改組し、 幼稚園教諭養成所(幼稚園教諭養成機関として文部省より認可・2年制)とする。
昭和 35 年 2 月	幼稚園教諭養成所が各種学校として認可。
昭和 37 年 4 月	別科は調律専修を除き学生募集停止。
昭和 38 年 4 月	幼稚園教諭養成所を発展的解消し、教育音楽学科に「幼児教育専攻」として増設。 国立音楽高等学校に普通科を増設。
昭和 43 年 3 月	大学院音楽研究科(修士課程)を設置。
昭和 44 年 3 月	専攻科廃止。
昭和 50 年 3 月	附属の各校(園)名を変更し統一する。 国立音楽大学附属音楽高等学校 国立音楽大学附属中学校 国立音楽大学附属小学校 国立音楽大学附属幼稚園
昭和 51 年 4 月	音楽研究所、楽器技術センターを設置(楽器研究所は発展的解消)。
昭和 53 年 3 月	大学位置変更(立川市柏町)。 附属音楽高等学校・中学校位置変更(国立市西)。
昭和 54 年 6 月	大学第2部廃止。
昭和 62 年 12 月	大学に音楽デザイン学科・応用演奏学科の2学科設置認可。
平成 16 年 4 月	大学学科再編(演奏学科・音楽文化デザイン学科・音楽教育学科)、収容定員減及びカリキュラム改編。
平成 16 年 4 月	附属高等学校普通科の男女共学化、及び校名変更(国立音楽大学附属高等学校)。
平成 18 年 11 月	大学院音楽研究科音楽研究専攻(博士後期課程)認可。
平成 23 年 4 月	大学に演奏学科ジャズ専修を新設。
平成 23 年 9 月	新1号館落成式挙行。

## 2. 平成 24 年度事業の概要及び説明にあたって

平成 24 年度決算は 5 月 29 日の理事会、及び評議員会において承認されました。また監事からは、本法人の業務及び財産の状況は適切であるとの「監査報告書」が理事会及び、評議員会に提出されました。

## 3. 平成 24 年度事業概要

平成 24 年度の事業内容を大きく教育研究事業、施設の整備、財政基盤の充実と経営管理体制の強化の 3 つに分けて説明いたします。

### 1) 教育研究事業

大学学部及び大学院

・平成 24 年度は、4 月 1 日より音楽学部 458 名、別科調律専修 3 名、大学院修士課程 33 名、博士後期課程 2 名の新生を加えて予定通り始まりました。

・平成 25 年 3 月には、音楽学部 445 名に学士号、大学院修士課程 38 名に修士号、そして博士号が 2 名に授与されました。別科調律専修の修了者は 5 名でした。

・安全で充実した教育環境の整備として、3 号館の耐震改修と講義室への用途変更、及び個別空調設備の設置工事を計画通り実施しました。

・教育改革の第 2 ステージとして、学科再編・カリキュラム改訂及び入試改革が集中的に議論され、これまでの 3 学科から、演奏・創作学科と音楽文化学科（音楽文化専攻と幼児教育専攻）の 2 学科への再編と、基本的な教育システム（基礎課程と専門課程、コース制等）を維持しつつ、教養教育の充実、グローバル人材の育成、キャリア形成に向けたカリキュラムの充実を骨子としたカリキュラム改訂、そして、大学入試センター試験の導入と特別給費奨学生入試の新設等の入試改革を、平成 26 年度より行うことを決定しました。

・今年度の各種定期演奏会は予定通り行われましたが、7 月の F・ブーランジェ指揮のブラソルケスター定期、準・メルクル指揮のオーケストラ定期、10 月の大学院オペラ、12 月の M・スキヤッタデイ指揮のシンフォニックウインドアンサンブル定期、また年末の N 響第九での合唱、平成 25 年 2 月の N 響定期への合唱等、極めて高い水準の演奏を実現し、演奏教育の成果を示しました。

・キャリア支援事業も、卒業生の雇用先へのアンケートを実施し、また平成 25 年度に向け、キャリアアカンセラーの充実を決定しました。11 月には、キャリア支援の世界的権威である、A・ビーチング

氏（マンハッタン音楽院）による一連の講演、ワークショップを開催し、学生、教職員のキャリア支援、キャリア教育に対する認識が一段と深まりました。

- ・東日本大震災の被災学生への学費減免措置を継続し、これまでの「特別暫定奨学金」を暫定ではなく、永続的な奨学金とすることも決定され、学生への経済的支援が一層充実したものとなりました。

- ・重点的に取り組んでいる国際交流事業も、ベルリン芸術大学や、バーゼル音楽院との交流演奏会を開催し、また交換留学生の受け入れと送り出しも順調に行われました。また、7月には、新たにカールスルーエ音楽大学との間に交流協定を締結しました。さらに懸案であったホームページの英語版が完成し、平成25年3月にオープンしました。早速、問い合わせが増大しています。

- ・音楽研究所のプロジェクトも順調に進展し、オペラ演奏研究プロジェクトによる、上演機会の少ないニーノ・ロータのオペラ「ノイローゼ患者の一夜」（再演）と「内気な二人」を上演し、好評を博しました。「楽譜を読むチカラ」プロジェクトも15回にわたる研究会が、外部受講生も含めて、実施しました。楽器学資料館のピアノプロジェクトも順調に進展しています。

- ・図書館の、演奏会等のデジタル・アーカイブ化も進み、様々な音響、映像情報の公開が進んでいます。

#### 附属中学校、高等学校

- ・安全な教育環境の整備

1号館及び体育館の耐震改修工事が行われました。平成22年の2号館第1期工事に始まった耐震改修工事も、本工事をもって完了となり、附属中学校・高等学校は、すべて最新の基準を満たすことができました。

- ・新入生

平成24年度は中学校67名（音楽コース56名、普通コース11名）、高等学校139名（音楽科90名、普通科49名）の計206名の新入生を迎えてスタートしました。

- ・本校を希望する生徒の確保に向けて

附属中学校では入学試験を3回実施しました。

高等学校音楽科では、昨年に引き続き、受験生のための「KUNION 講座」を実施し、実技指導、ソルフェージュ、国語、英語の内容をより充実させました。

- ・演奏会

首都圏の音楽高校より選ばれた演奏者をお招きして、市民の方々と共にその音楽を聴く「招待演奏会」や、本校で最も永い歴史をもつ「くにたち音楽会」等の演奏会に加え、音楽科生徒会主催の出張コンサート

「クリスマスコンサート」や近隣の方々をお招きする「地域謝恩コンサート」が行われました。またご要望をいただき、国立大学通りイルミネーション点灯式で高校の金管楽器専攻生がファンファーレを披露したり、「花祭りコンサート」、「クリスマスコンサート」(国立大学通り)に中高合唱部が、「歳末コンサート」に高校音楽科ブラスバンド部が出演して若々しい演奏を行い、多くの方々に喜んでいただくことができました。

高校合唱部第18回定期演奏会や普通科吹奏楽部第3回定期演奏会も好評でした。

・NHK-TV に出演

高等学校オーケストラが、依頼を受けてNHK-TVの「スコラ 坂本龍一音楽の学校」に出演し、「フィガロの結婚 序曲」、「オーケストラ Fukushima!」を演奏しました。

・東日本大震災で被災された方へ

中学・高校合唱部、普通科吹奏楽部、音楽科オーケストラ、中学校・高校生徒会が、それぞれチャリティ演奏会などを行い、来場された方から託された義援金を被災地にお贈りしました。

また、震災で失われてしまった福島県双葉町の小学校・中学校の校歌・応援歌の楽譜を、残された断片的な資料を基に復元して寄贈したところ、双葉町はこの楽譜によるCDを制作し、地元の方々に大変喜んでいただくことができました。

## 附属小学校

・ 教育内容の充実

新音楽カリキュラム(音楽 A と音楽 B)の授業内容の定着に力を注ぐと同時に、低中高それぞれの学年における音楽教育の指針に基づく指導ができました。また、音楽 B は、楽器を取り入れるなど、教育活動内容の幅を広げることを試みました。

また、造形においては、造形活動のプロセスを大切に、自分の心と向き合うことや、友達との関わり合いの中から豊かな感性を育むことをもとに、実践活動を試みました。

・ 教師の授業実践における質的向上

「授業力をみがく」という研究テーマの下に、各学年による研究会と、全体での校内研究会が積極的に行われ、研究部よりその視点が3つ提案されました。2年に渡っての研究でしたが、教員の授業力アップについての重要な視点と、具体的な方法について、全教員が共有しました。

・ 生活指導の徹底

登下校における児童の安全と、通学時の列車、バス等でのマナーについて再点検をして、指導の徹底を図りました。特に、下校指導については、教員が積極的に関わり、指導することができました。

また、平成 25 年度の生活指導に繋がる、規律ある子どもたちの生活を求め、「音小新しいなかま手帳」を作成し、保護者にも生活指導事項を共有化し、指導の徹底を図りました。

- ・ 校務分掌および運営組織の改善

平成 25 年度の教育活動や校務に向けて、現実的な問題への対応をスピード化することや、校務の効率化を求めて、システムの変更を行いました。

- ・ 応募者増の広報活動

平成 24 年度まで実施してきた広報活動を再点検し、学校説明会のあり方や学校要覧、ホームページ等の充実を図るため、全体での議論を深め、平成 25 年度の活動の基盤ができました。また、音小の PR 活動において、全教員による近郊幼児教室への PR 活動を 3 学期実施して、平成 25 年度に応募者増に繋がる活動ができました。

## 附属幼稚園

- ・ 施設設備の充実

### 保育室の増設

園児の遊び空間の充実と安全面の確保を旨とし、2 階会議室を用途変更し、保育室としました。このことにより 2 階部分は 4 歳児と 5 歳児の保育室となり、学年毎の連携も図られました。また、2 階に移動した 1 階部分の保育室は、多目的保育スペースとなり、全学年が有効に活用しています。

### 保育室冷暖房設備の設置

全保育室に冷房設備が完備され、特に暑い夏場の園児の健康・安全面に不安なく過ごせるようになりました。

- ・ 防災用品の整備

緊急災害時に備え、昨年度に引き続き東京都の補助事業により防災備蓄品（保存用食料、毛布、ポータブルトイレ、防災頭巾、担架、緊急救出用工具セット）を購入しました。

- ・ 総合リズム教育を基本に据えた保育内容の充実

総合リズム教育の理念を基本に、幼稚園生活の中で子どもたちがいろいろな体験を積み重ね、豊かな経験となるように、時間と空間を保障し、職員が一丸となり保育内容の充実をめざしました。

尚、保育日数も 195 日を確保しました。

- ・ 保育後の園庭開放

国立<sup>なか</sup>中地域に子どもたちが安全に遊べる場所が少ないこともあり、園庭開放を週 3 日降園後に 14 時 30 分まで実施しました。

- ・子育て支援事業

子育てをしている地域の方々に対して、よりよい子育て環境づくりの一助となるように、園庭開放、親子リズム遊び、子育て講演会や夏と冬の親子コンサート等 19 回開催しました。(積雪のため 1 回中止) また毎週金曜日にスクールカウンセラーによる子育て相談も実施しました。

## 2) 施設の整備

- ・安全で、充実した教育環境の整備のためのキャンパス整備計画に基づき、大学 3 号館の耐震改修と講義室への用途変更、及び個別空調設備の設置工事を実施しました。
- ・次年度の実施に向けて大学 5 号館の耐震設計を行いました。
- ・银杏寮の空調改修工事、第一期分を実施しました。
- ・附属中高 1 号館の耐震改修工事を実施しました。
- ・附属小学校体育館の空調改修工事を行いました。

## 3) 財政基盤の充実と経営管理体制の強化

- ・補助金の獲得

経常費補助金に加え、学校施設耐震改修事業等に対する補助金の獲得努力を続けた結果、10 億 42 百万円支給されました。

- ・教職員研修会の実施

大学の発展のためには、専門的な知識や高いモラルを持つ教職員が必要とされています。本学では教職員の能力開発 (FD、SD) の一環として、教職員向けの研修会を当年度も行いました。また職員を対象に、全員が大学の財務状況を理解できるようになることを目的に、「経営と簿記会計」という題目で研修会を行いました。

- ・内部監査の実施

内部管理体制強化の観点から第 11 回目の内部監査が行われました。今回は演奏課と音楽資料課が対象でした。

- ・省エネルギー活動の推進

キャンパス内外の健全な環境の維持・向上を図るために、園児から学生・教職員に対する啓発活動を行い、意識の高揚を図るとともに、キャンパス内での省エネルギー活動に取り組みました。具体的には、暖房、冷房の設定温度の調節、クールビズを実施しました。

#### 4. 平成24年度決算及び財務の概要

(数字は10万円単位を四捨五入して百万円単位で説明いたします。)

「資金収支計算書」が資金の収支(フロー)計算であるのに対し、「消費収支計算書」は企業会計で言えば損益計算書にあたるものです。学校の正味資産の増減を計算する機能を持ち、収支の均衡状況や学校財政の状態をみる上で、大切な役割を果たしていると言えます。そこで消費収支計算書から概要を説明いたします。

##### 1) 消費収支計算書

###### (1) 消費収入の部

「学生生徒等納付金」は4,752百万円で、予算比6百万円の増加になりました。前年度実績比44百万円の減少です。この内訳は大学(大学院を含む)で15百万円、中学、高等学校で8百万円、小学校14百万円、幼稚園で7百万円の減少です。

「手数料」は入学検定料が主体ですが、34百万円でほぼ予算通りでした。

「寄付金」は52百万円で、予算比11百万円の増加でした。

「補助金」は1,042百万円で予算比23百万円の減少となりました。内訳は国庫補助金で539百万円、東京都補助金で503百万円です。予算比、国庫補助金は4百万円増加しましたが、東京都補助金は27百万円減少しました。補助金収入は法人と大学、附属各校が協力して獲得努力を続けた結果、大学3号館の耐震工事に対する補助金等の特殊要因もありましたが、平成24年度も10億円台に達しました。

「資産運用収入」は93百万円で、予算比8百万円の減少でした。前年実績比では22百万円の減少となりました。日本銀行はデフレ脱却のため、政策金利を0.1%に据え置いており、これを受けて預金金利も極めて低い状態が続いていることがあげられます。一部中期国債と社債での運用により、利回りを維持する努力をしています。

「事業収入」は補助活動事業収入で45百万円、演奏会収入で18百万円、合計で63百万円です。

「雑収入」は74百万円で、内訳は私立大学退職金財団からの交付金収入が26百万円、東京都私学財団交付金収入が22百万円、その他の雑収入が26百万円です。

この結果、帰属収入は6,111百万円となり、予算比7百万円の減少となりました。

基本金組入額は826百万円となりました。主なものは、大学3号館の耐震、改修工事による組入れ額は、549百万円、附属中高の1号館の耐震改修による組入れが74百万円です。除却による取り崩し額が予算比減少したため、組入れ額は予算比89百万円増加となりました。



以上により「消費収入の部合計」は5,285百万円となり予算比97百万円の減少となりました。

学納金に対する収入依存度（学納金を帰属収入で割った比率）は77.7%です。

## (2) 消費支出の部

「人件費」は3,693百万円で当初予算比47百万円の減少となりました。「資金収支計算書」では、退職金の支払い実績167百万円を計上しますが、ここでは当年度退職者に係わる退職給与引当金取崩し額96百万円を差引いた額71百万円を退職金として計上します。さらに新たに算出した必要額をもとに、退職給与引当金繰入額52百万円が計上されます。前年度実績比では、「人件費」は61百万円の減少です。

「教育研究経費」は1,657百万円となります。予算比91百万円減少しました。前年度実績比では35百万円の増加となりました。減価償却費は701百万円で、前年度実績比80百万円の増加です。

「管理経費」は、333百万円となりました。予算比22百万円の減少ですが、前年度実績比27百万円の増加です。

「資産処分差額」は除却した資産の残存価額を処分差額として計上するもので、当初予算比21百万円減少の5百万円になりました。減少した理由は、図書を除却額が予算比減少したためです。

以上から「消費支出の部」の合計は5,689百万円となりました。この結果当年度の消費支出超過額は404百万円となりました。基本金組入れ前の帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支は、422百万円の収入超過となりました。

前年度繰越消費支出超過額3,058百万円に当年度消費支出超過額404百万円が加わり、翌年度への繰越消費支出超過額は、3,462百万円になりました。なお帰属収支は422百万円の収入超過となりました。

## 2) 資金収支計算書

消費収支計算書と重複する科目は省略し、ここでは消費収支計算書と処理が異なる項目について説明いたします。

### (1) 収入の部

「学生生徒納付金収入」「手数料収入」「補助金収入」「資産運用収入」は消費収入の対応科目の金額と同じです。消費収支と金額が大きく異なるものは以下の通りです。

「寄付金収入」は、消費収入の寄付金額から現物寄付を時価換算した3百万円が差し引かれた49百万円で、予算比9百万円増加しましたが、前年度実績比では53百万円減少しました。

「事業収入」は84百万円で、予算比9百万円の減少となりました。内訳は補助活動事業収入で66百

万円、演奏会収入で18百万円です。

「前受金収入」は今年3月までに納付された授業料等の納付金ですが、これは平成25年度に該当するものなので、前受金収入として処理します。金額は894百万円で、予算比2百万円の減少となっています。

「その他の収入」は334百万円で、予算比67百万円の減少でした。主な内訳は前期末未収入金の回収が221百万円、貸与している奨学金の回収30百万円、仮払金の回収が64百万円です。

「資金収入調整勘定」は当期に実際の資金の受入れが行われない期末未収入金と前期末前受金を収入から控除するものです。以上に前年度繰越支払資金3,754百万円を加え、収入の部合計は9,979百万円になります。

## (2) 支出の部

「人件費支出」は3,737百万円で、当初予算比70百万円の減少です。

「教育研究経費支出」は956百万円で予算を45百万円下回りました。前年度実績比では、44百万円の減少です。

「管理経費支出」は278百万円と予算比19百万円の減少です。

「施設関係支出」は740百万円で、予算比135百万円の減少でした。内訳は建物支出で710百万円、構築物で3百万円、建設仮勘定支出で26百万円です。

「設備関係支出」は131百万円で、支出の内訳は、教育研究機器備品支出が80百万円、その他機器備品支出に10百万円、図書等の購入に29百万円、ソフトウェアの購入で11百万円となっています。

「資産運用支出」は有価証券の購入で1,007百万円です。

「その他の支出」は333百万円で、奨学金の貸付金および前払金、前期末未払金支払支出、仮払金支出などに係る支払いです。

「資金支出調整勘定」192百万円は、当期に実際の資金支出が行われない期末未払金、前期末前払金および前期末棚卸資産を支出から控除するものです。

以上の支出に「次年度繰越支払資金」2,990百万円を加えた支出の部の合計は、9,979百万円となり収入の部の合計と一致します。

## 3) 貸借対照表

「資金収支」「消費収支」の決算により、平成24年度末現在の資産、負債及び基本金の状況を表したものが「貸借対照表」です。

資産の部は、総額で321百万円の増加となっています。内訳は固定資産が1,103百万円増加し、流

動資産は782百万円減少しました。主な要因は、預金から債券へのシフトが主因です。負債の部では、退職給与引当金の減少44百万円により固定負債が56百万円減少し、流動負債は、未払金、前受金の減少により44百万円減少しました。

基本金の部は826百万円増加し、繰越消費支出超過額は404百万円増加しました。

また貸借対照表の注記として「重要な会計方針及びその変更等並びにその他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項を記載すること」となっています。当年度の重要な会計方針の変更等は、ありません。なお、退職給与引当金の計上基準については、期末要支給額の100%を引当てています。また、有価証券は中期国債を中心に運用しているので昨年同様に含み益の状態となっています。外貨資産やデリバティブ（金融派生商品）取引はありません。さらに関連当事者との取引に該当するものとしては、青梅佐藤財団との青少年を対象とした演奏会があります。

資料1：過去5年間の帰属収支、消費収支の推移

(百万円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
①帰属収入額	6,128	6,090	6,053	6,207	6,111
②基本金組入額	△ 925	△ 688	△ 1,928	△ 2,791	△ 826
③消費収入額	5,203	5,402	4,125	3,416	5,285
④消費支出額	5,703	5,530	5,474	5,689	5,689
⑤帰属収支差額	425	560	579	518	422
⑥消費収支差額	△ 500	△ 128	△ 1,349	△ 2,273	△ 404
⑦前年度繰越額	1,192	692	564	△ 785	△ 3,058
⑧次年度繰越額	692	564	△ 785	△ 3,058	△ 3,462

資料2：学生、生徒数の推移

(名)

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		
	5/1現在	前年比	5/1現在	前年比	5/1現在	前年比	5/1現在	前年比	
大 学 院	86	+16	85	△1	85	0	78	△ 7	
学 部	1,864	△95	1,844	△20	1,865	+21	1,865	0	
別 科	10	△1	10	0	11	+1	9	△ 2	
高 校	音楽科	326	△6	319	△7	286	△33	290	+4
	普通科	147	+11	135	△12	135	0	126	△ 9
	(計)	(473)	+5	(454)	△19	(421)	△33	(416)	△ 5
中 学 校	224	+3	227	+3	237	+10	219	△ 18	
小 学 校	438	△9	434	△4	441	+7	425	△ 16	
幼 稚 園	110	△11	114	+4	106	△8	93	△ 13	
合 計	3,205	△92	3,168	△37	3,166	△2	3,105	△ 61	